教科又は教職に関する科目、教育実践研究Ⅰ（教育問題）

小集団による討議と発表を取り入れた授業の展開

センター・太田佳光

１、授業の概要

本授業では、現代わが国の教育現場が直面している教育問題（特に逸脱行動・授業妨害・いじめ）を取り上げ、その対応について具体的に考察することにより、教師としての教育問題に対する基本的な態度の育成と、教育実践に対する課題意識に答えようとしている。

本授業は、学部３年生後期に開講される教職に関する科目であり、教育実習終了直後の授業のため、学生たちの教育実践に対する関心は高く、とりわけ実際の学級経営に対しての課題が多いからである。その具体的な対応方法として、以下の二点に焦点を絞った授業を展開した。問題をかかえる児童・生徒への個別的対応と、学級経営を視野に入れた「学級づくり」による対応である。なお、受講生数は８０名であった。

２、授業の工夫

本授業は、学生がさまざまな問題を主体的にとらえ、その対応策を、教師になった自分自身の問題として考えることをねらいとしている。そのため、ビデオ映像や実践資料を使用し、実際の問題場面を提示し、それについての考察を大切にした。さらに、本年度からは、課題を提示した後、５～６名の小集団による話し合いを実施し、その後全体への発表を行った。

また、双方向的授業を実践するために、「大福帳」というＡ４版の出席カードを使用している。「大福帳」には、１５回分のコメント記入欄が設けられ、毎回授業終了後に、授業への感想や質問などを学生が記入し、次回授業時に学生に返却するものである。この出席カードの使用により、授業時に学生がどのようなことを考えているかを知ることができ、次回の授業にその内容を生かすことが可能となる。また、学生の質問などに個別に対応できるため、より細やかな指導が可能となった。

３、授業への評価

授業への評価は、先に示した授業の工夫に対するものが多く、ほとんどが高い評価を得ている。以下に、授業への評価点と改善点を、学生の授業評価から列挙する。なお、授業評価は、無記名の記述式とした。

・評価できる点

「問題行動に対して、事例の紹介が映像等でわかりやすく、自分で考えた上でグループで共有し合えたことで、とても深い学びができた。理論も補足的な説明もわかりやすかった。またビデオの一つ一つが心を動かし、教師になりたいと強く思うことができるものだった。」

「ビデオなどを見て（事例を用いて）そこから問題点や良いところを探っていくという授業形式をとっていたのは分かりやすく、また自分の問題として考えることが出来て良かった。グループでの話し合いでは、たくさんの人の意見を聞くことができ、自分の中で深く考えることができた。」

・改善すべき点

「時間に余裕があれば、もう少し話し合いの場を設けてほしかった。」

「プリントや資料をもう少し細かなものがほしいと思いました。」

４、次年度への課題

本年度実施した、小集団による学習方法をさらに洗練したい。また、資料提示や講師の話法なども工夫したい。